

令和4年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末に学生に向けて「授業改善に資するアンケート」を実施している。この「授業改善に資するアンケート」の結果に対する所見、および、教育改善のための有益なコメントや要望等を授業担当教員から「授業改善メモ」として提出してもらい、内容をとりまとめてホームページ上に公開している。

令和4年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを以下1)から5)に分類し紹介する。

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

初年次セミナーII

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・本講義では事前学習、事後学習が設定されており、ある程度学習時間は確保されていると思われる。
- ・後半の授業コンテンツが十分ではない（教えるべき内容があまりない）ことから、余った授業時間を最終レポートの執筆、学生グループでの添削に充てた。このことを考えると、おおよそ適切に授業時間外学習に取り組んでいたと評価できる。
- ・授業外の学習時間が長い学生は、授業の理解度や満足度も比較的高い傾向にあった。
- ・週1時間未満の学生（3割）は、要求される作文や調べ物を課す内容の割には対応時間が不十分である。
- ・全体の結果より、やや時間外学習の時間が短い傾向にあり、時間外学習の促しにはやや課題があった。
- ・週に1時間前後の授業時間外学習をしている学生が多かった。あまり負担を増やしたくないが、提出課題の分量を考えると、もう少し多く授業時間外学習をしてもらいたい。
- ・多くは30分から1時間であり、単位の質保証という観点からは十分とは言い難い。しかし、一方で課題が多いとの声もあり、バランスが難しい。
- ・授業中に積極的に時間外学習を促していきたい。
- ・特に時間をかけていないとみられる学生に対しては、個別のフィードバックも必要であっ

たかかもしれない（本講義にかけられる時間の観点で限界はあり、兼ね合いであるが）。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・前期に開発した引用に関する小テストを流用した。また、独自資料の配布、独自授業コンテンツの活用等も行い、学びの意欲を引き出すことを重視した。その結果、平均よりも多く「十分得られた」と回答している。
- ・学術文章のルールや書き方の基本を学ぶことができてよかったという肯定的な感想が多かった。
- ・授業が対面で実施され、多く他の受講生（学部異なる等）と対話・交流を持てたことが良かった。
- ・事前・事後学習をふまえながら、授業内容の理解をより深めているようだった。
- ・「同じような事項の繰り返しが多かった」という意見があった。
- ・事前・事後学習のフォローを行いながら、学習している実感を高めてあげる必要がある。
- ・「4年間・6年間かけて成長していくためのきっかけ」という位置づけは、初年次教育においても非常に重要であると考えられるので、今後も継続して授業デザインの軸としていく。
- ・各回の目標と身につけるべきスキルをより明確にし、授業の振り返りの際にその点を確認できるように改善を試みたい。
- ・授業用スライドを事前に開示できるものを用意する必要もある。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・平均よりも多く「積極的に促していた」と回答している。これは、毎回のアンケートで同じ傾向である。授業実施においては、協働能力の開発を重視しており、結果として発言力等の向上があるものと考えている。
- ・最終レポートを書くにあたり、個人の探求の時間を多く与えてもらってよかった等、自分で考察することに重点を置いた授業に対し良い評価が得られた。
- ・各回の授業目標を授業の最初だけでなく最後にも確認することで、学習成果を実感しやすくなった。
- ・グループワークが対面で実施されることで、身振りや表情を確認しながら自主的に課題の考察を進めていたと感じた。
- ・何を考察するべきか、何を成し遂げなければいけないのか、いわゆる work assignment の内容を理解できていない学生へのフォローが必要である。
- ・ソロワーク、ペアワーク自体が自主的な取り組みとなっているはずだが、「あまり促していなかった」「全く促していなかった」と回答した学生がいたことから、ワーク前・ワーク中の声掛けに改善の余地がある。
- ・知識の伝達や説明は最小限にとどめて、可能な限り個人ワーク・グループワークがたくさん行えるようにしたい。
- ・課題やグループでまとまった意見等に関して、数名に全体に向け発信してもらおう。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」(41%)「おおむね良かった」(59%)で合計100%となり、すべての受講生が内容に対して高く評価していた。
- ・教員自身の論文を例として、具体的なレポートの形を示した点が学生から評価されている。
- ・自由記述では「親身に面談をしてくださった点」や「先生が熱心なところ」など、学生に向き合うことを教員が重視していることも、学生に伝わっている様子であったため、この態度を今後も継続していくことが担当教員としての責任であると思われる。
- ・グループやペアで相互チェックしながら書き進めていくという授業のやり方はおおむね好評であった(他の人の添削をすることで、より力がついたという学生の意見もあった)。
- ・レポート執筆をグループで取り組むことで、学習に積極的に取り組めたようだった。
- ・「求めるレベルが高すぎる」という指摘もあった。しかしこれらは、進級するにつれていずれ求められるものである。
- ・課題が多いと感じている学生も何人かいた。
- ・それぞれの課題に取り組む意義を丁寧に解説し、学習時間を増やし、その結果満足感が十分得られるようにしていく必要がある。受講生各自が自分の到達度を自覚できる仕組みがあると良いかもしれない。
- ・レポート作成の作法は作法として「知識伝達」を行う必要もある。学生には「手を動かしていれば良いわけではない」といった学習への向き合い方や大学での学びへの向き合い方なども踏まえて検討していきたい。
- ・事前学習を提出必須にしたことで、他のクラスより課題が多いと感じる学生もいたかもしれない。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・授業中やそれ以前の取り組みの必要性が考慮されていない。
- ・ペアワークをうまく使えていない様子の学生が散見された。事前学習、ソロワークで一定程度進んでいないと、ペアワークを活用できていないものと考えられ、個別のフィードバックが必要と感じた。
- ・初年次セミナーは授業コンテンツが1週間ほど前に示されることが多く、限られた時間の中で確認し、自身の教育理念に基づいて改良作業をしているのが現実である。WGメンバーではないため、学期を通した全体の見通しが立てにくい状況もある。
- ・グループワークが苦手であることが分かっている学生に対する事前のアプローチが弱かった。
- ・一部の授業を遠隔形式で行ったが、学生らは提示された課題に真摯に向き合い、取り組んでいた。
- ・初年次セミナーIIは、前期と異なるクラスを担当すると苦勞することが多い。今期も同様の傾向を強く感じ、授業担当を苦しく感じる時期も長くあった。しかしながら、一方で、

教育効果という点からは、前後期でクラス替えを行うか、あるいは授業担当教員を変えたほうが良い事実があるように思っている。特に、初年次セミナーの全体方針を大きく逸脱する教員がいた場合に、前後期共に当該教員が担当すると、教育の質保証を行えないのではないだろうか。

- ・「初回の授業から最終レポートを意識させた授業をして欲しかった」という意見が複数あった。
- ・前年度のスライドを参考資料として提示して頂いたが、授業ガイドの想定通り進んだ場合のスライドも参考資料として提示して頂けると、講義として目指している指導と、実態に応じて許容されるスライドの振れ幅が理解できるものと思う。
- ・計画的な課題の取り組みや論証型レポートが社会の中で成功を収めるのに必須であることを自覚してもらうように、授業を工夫する必要がある。
- ・学生と教員との相互の信頼醸成が大切である。
- ・個々の学生の学習をフォローしながら、学生の授業理解を深める工夫をしていきたいと感じた。
- ・今期のクラスは、学習意欲という観点からは、極端に二分されていた。学習成果についても、同様の傾向があった。今期は、第3～4回授業で引用に関する小テストを課したが、高得点を獲得した学生は、出席率、課題提出率その後も継続して高く、最終評点も高い傾向が顕著であった。逆に、小テストの点数の低い学生は、その後の欠席回数が多く、最終評点も低い傾向が顕著であった。こうしたことから、初年次というよりも、入学直後の教育が重要ではないかと推察する。換言すれば、入学直後の学びへの動機づけが重要なのではないだろうか。

英語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・概ね全学平均程度の学習量だった。
- ・授業時間外学習は1時間から2時間程度が多く適切であった。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・程度の差こそあれ、回答者の大多数が、学習成果を実感してくれている。
- ・The majority of students reported positive learning outcomes though sometimes they may have difficulty seeing how much they have learned. Though it is a short learning period, I would like to devise more ways to show students how they have improved.
- ・すべての生徒が何かを達成したと感じてくれたことがうれしかった。生徒が思っている以上に上達している可能性があるため、最初の授業と最後の授業で英語力のレベルの違いを示すことが重要だと思う。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・授業中に考えさせるような取り組みがあったと答えた学生が半分いた。授業はほとんどすべて英語で行い、英語で学生同士で話し合う形式にしたいと思う。
- ・ The results here are quite high, which is encouraging. It seems to be a reflection of the group work and engaging with the course material every class. I hope it will be even better once I can resume face-to-face classes. I will continue to encourage students to actively engage with the course content.
- ・「積極的に促していた」83%、「おおむね促していた」17%で合計100%であった。自主的な考察・取組は達成できたと思う。
- ・アクティブラーニングのためのグループワークがとても役に立ったとのことなので、次年度はこれを増やしていこうと思う。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・半分の学生が「とても良かった」と評価した。授業を英語でやることで学生のやる気を引き出すようにしたい。
- ・「とても良かった」「おおむね良かった」をあわせると80%となっている。興味のある内容のプレゼンには、積極的に取り組めたようである。
- ・ I am happy with the feedback from students. There were many positive comments about the class management over Zoom, particularly the use of Breakout Rooms for group discussion. I will continue to use group discussion extensively to give students opportunities to interact with each other.
- ・「とても良かった」が50%、「おおむね良かった」が33%で合計83%と学生から高評価を得られたが、「あまり良くなかった」が17%であった。これに関しては検討すべきである。「あまり良くなかった」と答えた学生は、高校での和訳癖がついていて、速読の拒絶反応を示したのではないかと思う。今後の講義の進め方を工夫したい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・難易度的に問題なく、解説もよくされていたというコメントが共通してみられる。昨年度より「とても良かった」という数値は上がっている。
- ・このクラスは中級と初級の学生が半分ずつ混ざっている印象を受けた。授業を英語でやりつつ、学生の英語力に合わせて日本語を混ぜる量を増やしたり減らしたりして難易度を調整しようと思う。
- ・ I was particularly happy with the self-reflection assignments given in the class. It was very encouraging that the students seemed to be thinking deeply about the course content. I will continue to give students opportunities to express their opinions on various issues.
- ・この講義では、学生に様々な英語演習理論を教え、積極的に演習させて、とっさに英語が

しゃべれるようになることを目標としたが、最後のスピーキングテストでその成果は出たので、目標は達成できたと思う。

- ・基本的に対面授業で行ったため、学生間で教え合ったり、確認できていた。また、毎回のグループ活動を通してお互いに学びを深められていたようである。
- ・レベル別の授業にも関わらず、学生の英語力に差があり、授業運営が難しかった。

初修外国語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「1時間以上1時間30分未満」がほぼ半数で、それより多い者が約3割、それより少ない者は約2割であった。時間数は多い方だと思われる。
- ・manabaでのドリルを設定しており、ある程度授業外学習に取り組んでいるようであるが、1時間未満が約半数いるため、より適切な課題設定をしていきたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・概ね学習成果を得られたと感じているようである。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促した」が63%、「おおむね促した」が37%であった。おおよそ平均的なところだと思われる。もう少し積極的に促すよう工夫したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・総合評価は「とても良かった」が74%、「おおむね良かった」が24%であった。比較的高いほうだと思われる。また、ペアワークやクイズ、歌などのドイツ文化の紹介が良かったとの意見が多く見られた。
- ・満足度は高く、ペアワークを多用して実践的な会話の時間を設けたことに対して、良かったとする声が多かった。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・感染状況や天候等に応じて、適宜zoomに切り替えた点について好評であった。今後対面を基本としつつも、オンラインの良い点もうまく授業に取り入れていきたい。

日本語・日本事情科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・1~1.5時間未満が5名と最も多く、2時間前後を費やした学生が多くみられた。おおむね適正な範囲であると考えられる。

- ・ 想定内の学習時間に大多数の受講生が該当するが、若干見られる分散傾向は、受講生の日本語能力差によるものと思われる。
- ・ 学習時間が「4 時間以上」の受講生に対しては負担にならないよう十分配慮しながら対応する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 全て「十分得られた」、「おおむね得られた」との回答であり、学習者側から見ても一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・ 受講生の関心と日本語能力に合わせた学習内容選びに努め、小レポートなどによる個別指導も継続していく。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 「積極的に促した」(67%：8名)、「おおむね促した」(25%：3名)と大多数から肯定的な評価が得られた一方、「あまり促していなかった」(8%：1名)という否定的な評価もあった。
- ・ 受講生の能力・興味関心にそった促しを工夫していきたい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ 日本・自国・友人の国の社会問題を理解できて視野が広がった、扱われたテーマが面白かった、全員がわかるまで詳しく説明してくれた、といった具体的に肯定する意見があったが、パワーポイントを高画質にしてほしいという指摘もあった。
- ・ 日本社会理解だけではなく、自国および友人の国の理解をするための活動（話し合い・小レポート作成）は複数の受講生から評価を得ているので、引き続き行っていきたい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・ 授業内容を受講生の希望をもとに決定するやり方は評価を得ているので今後も続けたい。
- ・ 受講生の履修態度はよく、多くの者が積極的に授業に参加していた。
- ・ 受講生にとってより充実感が得られる授業の創出に努めたい。

教養教育科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 文科省が定める標準に近い値と思われる。
- ・ 期末に提出する課題（授業開始時から予告）に 15 時間かけるだけで平均 1 時間にはなるのだが、30 分未満などはあまりに少ないと思う。期末課題に取り組んだ時間を勘定に入れてない可能性もある。人数が多い授業なので、簡単ではないが復習の課題を考えてみたい。

- ・前期でも同様であったが、授業外でのレポートを課しており、時間外学習が「全くしなかった」、との回答が11人(6%)もあることに疑問を覚える。アンケートにどの程度真剣に回答しているのか疑わしくなる。
- ・平均で1時間といったところで、科目の性格からすれば、こんなところと思う。
- ・30-60分が最も多く49%であったが、60-90分が次に多く26%で二極化が認められる。
- ・30分未満の学生が50%で、1時間半未満の学生が46%であった。事前配布している資料を事前チェックしている様子が見えてくる。今後も、できるだけ早めに配布資料を公開することで、自習時間を増やしたい。
- ・30分から1時間程度の予習をおこなっている学生が大部分だったが、一部の学生はもっと長い時間の予習をおこなっており、予想以上に真剣に取り組んでくれたものと思っている。授業時間外学習の課題について次回の講義で内容を精査する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が55%、「おおむね得られた」が44%と学習成果は得られていたと考える。
- ・アンケートに回答してくれた学生の大部分は、肯定的な意見だったが、一部の学生はやや不足感を持っているようだった。学習成果の明確化を図るために、レポート等をより理解を進めるのに有効なものにする。
- ・おおむね想定どおりの結果と捉えている。さらにやりたいという思いを有する学生へのフォロー体制を整える。
- ・成果が「得られなかった」との回答はなかったが、「十分得られた」との回答を増やしたい。授業資料や課題について検討したい。
- ・授業中の印象以上に、学習成果を感じた学生が多いようだ。面白いと思ったことを表現してくれるような工夫ができればよい。
- ・「十分得られた」が60%、「おおむね得られた」が34%で良好な結果である。今後も同様の内容で授業を実施したい。
- ・例年と同じ水準で、9割以上が成果を実感しているとのことであった。
- ・「十分得られた」が41%、「おおむね得られた」が54%であり、トータルで95%の受講生より積極的な評価が得られた。「あまり得られなかった」が2名のみながらいた。0にしていきたい。
- ・「十分得られた」、「おおむね得られた」で90%に達しているため、ほとんどの学生で学習成果が得られていると思われる。アンケートから授業動画の提供が学習に役立っているとわかっているため、これを継続する。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」が64%、「おおむね促していた」が32%で良好な結果である。今後も同様の内容で授業を実施したい。
- ・促しがなければ動かないという点が気になる。前半の介入はやや過剰、後半の距離感を全

体通して貫く。

- ・履修生の提出物や授業内でのレスポンを共有したことは、かなり好意的に受け止められていた。今後も継続したい。
- ・「おおむね促していた」が 26%、「積極的に促していた」が 74%、トータルで 100%の学生よりアクティブな授業だと評価された。この水準を落とさないように努力したい。
- ・「講義中に respon のアンケートを利用して授業を進めていた点」、「考えさせるような機会がたくさんあった」、「Zoom での授業であったが、話し合いの時間などを設けてくれた点」など、遠隔講義の良さも感じてもらった。積極的な学生は respon による即時での考えの共有と、ブレイクアウトセッションでの他の学部生との交流ができたが、そうでない学生をどう引き込むかを来年工夫する。
- ・グループディスカッションで、いろいろな人と交流できることが良かったという意見が多数見られた。また、書籍や授業に関係する映画の紹介などが好評であった。
- ・前回のアンケートを紹介することで、他人の意見に触れられたり、質問に回答していたりしたことを評価する学生が多かった。引続きグループディスカッションと意見の共有を行いたい。
- ・双方向のコミュニケーションツールの継続利用、ハイブリッド授業など対面のコミュニケーションも復活させて講義に取り組みたい。留学生は、遠隔授業でかつ一方的な日本語だけなのでかなり理解度が厳しかっただろう推測している。外部講師の講義は概ね好評のようなので今年度も継続を検討している。
- ・授業時間中のチャットや respon での質問を受け付けたが、授業時間中に自主的に取り組みをさせるような項目は少なかったと考える。respon を使用した授業時間中の作業なども検討したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とてもよかった」53%、「おおむねよかった」38%と良好な結果である。今後も同様の内容で授業を実施したい。
- ・授業アンケートでも「鹿児島大学ならではの講義であり受講希望した」との意見があり、鹿児島大学の特色ある講義を行うことは意義深い。
- ・受講者が行う簡単な実験を通して授業することはおおむね好感をもって伝わったようだ。数は少ないが、受講者数が多いことによる感染症の心配の声もあった。コロナ感染リスクが軽減され、実験をしたり学生が互いに話したりといった授業がさらに展開できる環境になれば嬉しいことだ。
- ・外部ゲスト講師の最新動向の提供は奏功した。より前半に入力としてゲスト講師の話題提供を行う。
- ・グループディスカッションをもっと増やしてほしいとの声があった。グループディスカッションは、講義内容の関係で 5 回ほどである。代わりに次回アンケートの公開で他者の意見に触れる機会を設けている。引き続き行っていきたい。

- ・講義時間がオーバーしたことが多かったのが問題点として指摘された。あらかじめ講義内容を精査して、必要な部分と不要な部分を決めて対応するようにする。
- ・授業中に思いついたことを学生同士で気軽にアウトプットできる時間があることで、理解が深まったという意見が多かった。
- ・ノートをとる時間が足りない、スライドのコピーを配布してほしいなどの声がいくつか見られた。聞きながらノートを取ることの重要性を繰り返し丁寧に説明するようにしていきたい。
- ・「総合評価は良好で、わかりやすく素晴らしかった」、「この授業を受講してよかった」との感想が見られ、満足度が高かった。今後も身近な例をたくさん取り上げ、わかりやすい授業の継続を心掛けたい。
- ・解説スピードが速い、遅いとの指摘があり、学生のレベルにより授業のスピード感が異なるようだ。授業動画を見返すことにより、スピードが速いと感じる学生も理解ができると思われるため、動画公開を継続する。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・行動科学は受講者が多いため今期もオンデマンドにて授業を行った。試聴は当初の授業予定日から一週間以内としたが、その期間については検討の余地があると感じている。このような良好な結果については、今後も引き続き維持すべく、問題点の克服や必要な方策の実行など模索したい。
- ・おそらくデータに出てこないだろうが、遠隔授業では繋いだだけの学生もある程度おり、それが途中のresponなどでばれるか・ばれないかになっている。受講生が多い中では、TAなどのサポートがないと、これ以上は難しい。
- ・毎年のものであるが、講義内容が講師間で内容の重複があると指摘される。今回も内容の調整をし、今回、私も聴講しているが、講師の講義内容には必要な情報であり、省くことができないと判断できる。しかし、内容の重複を指摘する学生がいる。
- ・感染症対策のために、クラスを2つとし、一方に講師がたち、他方は中継をとという形態を取らざるを得なかった。中継は技術的には可能だが、諸種のトラブルが起きやすく、この点学生から改善要求があった。2クラス体制から1クラス体制へと移行できる情勢に移りつつあると見ている。この問題は解消できると予想している。
- ・学生だけでなく、教員の負担も大きい科目である。後期の集中講義では「単位取得」目的での学生が多く、前半で脱落したものが一定数いた。来年度については、前期開講なので、「初年次セミナーⅠ」の進行も考慮しつつ、プレゼンテーションを後の方に持ってくる内容を考えている。
- ・ミニツペーパーの提出期限が早いという意見があった。ミニツペーパーの提出期限をもう少し延そうと思う。また、manabaの小テストは、締め切りを過ぎると学生側から問題がわからなくなるようなので、コンテンツなどに小テストの問題を掲載するなどして、締め切りを過ぎても提出しやすくし、単位を諦める学生を減らしたい。

- ・受講者が想定外に多すぎた。受講者人数の制限を設けるなどしてよりインタラクティブな授業を行いたい。
- ・manaba のスレッド機能を使って意見を書き込ませたが、ほかの受講生の意見も共有できて参考になったとの前向きな回答が多く、今後も活用していきたい。

学芸員資格科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・96%の学生の授業外学習時間が1時間未満であり、さらに授業時間外学習を増やす必要がある。宿題を増やすか、予習復習を促す指導を強化する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・すべての学生が「十分得られた」か、「おおむね得られた」と回答している。今後は、すべての学生が「十分得られた」と回答するような授業をしたい。学芸員として勤務した際、時代に合わせた情報メディア活用ができるよう、さらなる工夫をしていきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「あまり促していなかった」という回答が26%あった。学生により、自主的な取り組みのとらえ方が異なることを鑑み、多くの学生の自主的な取り組みを促せる多様な取り組みを工夫したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」割合が50%を切っており、さらなる改善が必要と思われる。授業内容と博物館での業務を結び付けて考えられるよう、授業内容をさらに工夫したい。

5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・昨年度までの遠隔を中心とした授業よりも今回の対面授業の方が学生の満足度が高いと思われる。新型コロナウイルス感染状況により、可能ならば学生同士で意見交換を行う機会をつくっていきたい。

公開日 令和5年6月20日
文責 鹿児島大学共通教育センター
FD委員会委員長 大野克彦